

令和6年度

『二十歳のつどい代表が市長と語る会』

# 報告書



©稲沢市いなッピー

令和6年11月28日（木） 午後7時～午後8時25分  
稲沢市役所 政策審議室

○目次

市長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

教育長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

二十歳のつどい代表による提案・要望

・ 1班「教員支援について」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

・ 2班「稲沢市の魅力向上」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

・ 3班「駅周辺の都市開発」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

・ 4班「SNSを用いた稲沢市の魅力発信について」・・・・・・・・ 8

### 【稲沢市長挨拶】

皆さんこんばんは、本日は「二十歳のつどい代表が市長と語る会」に、お集まりいただきありがとうございます。二十歳のつどいに向けてご準備いただいておりますことに感謝を申し上げます。二十歳を迎えられた皆さんの話を聞くことは貴重な機会だと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。今回市長3期目となり、議員時代も含めると皆さんが生まれてから現在に至るまでよりも政治に携わる年数の方が長くなることとなります。

二十歳のつどいを運営していただく代表の皆さんに、お集まりいただきまして、稲沢市政に対するお話を伺うことになっております。私自身若いころに考えたことが今の基礎や原動力になっております。ぜひみなさんには今後の稲沢市に対する意見や夢を語っていただきたいです。夢を形にすることが私たちの仕事でもあります。稲沢市の行政や社会全体についてぜひご意見や考えを聞きたいと思っております。

最後に、この会が有意義な会議になるよう忌憚のないご意見を聞かせていただき、さらに二十歳のつどいが盛大に開催されますことをお祈り申し上げまして私の挨拶とさせていただきます。

### 【教育長挨拶】

教育長の広沢憲治と申します。よろしくお願いいたします。

若い人たちの感覚や発想に触れることができるのは大変面白いと感じており、本日の会を非常に楽しみにしております。

今回は同世代の集まりですが、この先違う世代と関わる機会が増えていくと思えます。今後様々な場面で、異なる世代と集まりながら良いものを練り上げていく感覚を今回の会の開催にあたり、経験できたのではないのでしょうか。

今後多くの場面で今回の経験が活用されると思えます。本日の開催にあたり準備していただいたものを発表していただき、市長と様々なお話ができることを心から期待しております。

本日はよろしくお願いいたします。

### 【二十歳のつどい代表自己紹介】

順に自己紹介

出身中学・氏名・二十歳となつての抱負

## 二十歳のつどい代表による提案・要望

### 【提案・要望：1班】「教員支援について」

現在、様々な地域で教員不足となっています。愛知県も例外ではありません。実際に、稲沢市のことではありませんが、小中学校での教育実習の際に、先生方は教員が不足していると話していらっしゃいました。そもそも手が少なくなっていると思います。理由としては、教育現場がブラックな点があると思います。例として、長時間労働など過酷な労働環境、部活動顧問などの本業以外の業務、待遇が良くないなどがあると思います。

教員志望でない人に「教員の仕事についてどう思うか？」と聞いた際に、「大変」「ブラック」「残業やばい」とマイナス印象ばかりでした。そう思っても仕方がないと思います。

そのような労働環境から、大変すぎて教員が鬱になってしまうということがテレビで放送されることもありました。そのような状況で教員を目指そうとする人が増えるとは思えません。教員という職についてのマイナスの印象を払拭して、教員を目指す人を増やすには、市区町村や都道府県が何か動かないといけないと思います。

名古屋の部活動に関する動きは良い例だと思います。一方で、稲沢市は、「稲沢市教員の多忙化解消プラン」が2018年に改訂されて以来あまり動きがみられないように感じます。時代の変化とともに、教育現場は変わっていきます。それに応じて、教員の負担軽減となるような支援をぜひ稲沢市にはしていただきたいと思います。

そこで、質問と提案をさせていただきます。

質問は、教員の負担軽減のために、今どのような施策が行われているのか、また、教員の負担軽減のために、今後どのような改善策を行おうとしているのかを教えてください。

提案について2点あります。

1点目は教員の不足補うために、授業の補助として、ボランティア(地域の方々)などを雇うというものです。

2点目は、部活動の顧問を教員ではなく、コーチを雇って委託するといったことです。

### 【回答：市長】

学校の教員だけでなく、介護や保育の現場でも言われておりますが、決して対策をしていないわけではなく、様々なことを行っております。直接生徒と向き合うようなことは教員、それ以外のことは特別教育支援員やスクール・サポート・スタッフがあげられます。スクール・サポート・スタッフは、配布物の印刷や来客対応、電話対応、掲示物の張替え、環境整備等を行っております。その他にも、医療的ケアが必要な児童生徒への支援員や ICT 支援員の配置といったような、教員の負担軽減につながるような人材を配置しております。なお、不登校の子どもたちの学校復帰に向けて学習や生活支援を行ってもらう「ホームフレンド」も募集しています。教職を志望する大学生の皆さんにも、多くの方に「ホームフレンド」に登録していただき、参加していただきたいと思っております。

部活動については、令和 8 年度の 2 学期から学校による休日の部活動は実施しない方針で動いております。当面、休日の部活動は部活動指導員が中心となって、拠点校方式で行っていく方法と地域にあるスポーツ団体・文化団体を生徒や保護者に紹介する方法を進めていきたいと考えています。国も市も完全に制度が整っているわけではありません、しっかりと体制を整えて部活動の地域移行に取り組んでまいります。

成人された皆さんについても指導できる種目がありましたら、ぜひ「部活動指導員」に登録していただき、地域の中学生のために休日の部活動を担っていただきたいと思っております。

教員のなり手不足については、介護や医療の現場でも同様です。国全体で抱えている問題の一つであり市としても課題に取り組んでまいります。

### 【提案・要望：2班】「稲沢市の魅力向上」

私たちが考えた稲沢市の集客量を増加させるための案は、スケートボードパークを建設することです。近年、日本人選手のオリンピック等での活躍により、スケートボードの注目度が上がっています。しかしながら、スケートボードをする場所が不足していることにより、やってみたいけどできない人が多くいるように思われます。そこで、稲沢市がスケートボード施設を作ることによって、多くの人を訪れるようになるのではないかと思います。また、スケートボードパークを目的に訪れる人が、周辺の飲食店や商業施設を利用することで、地元経済にもプラスの影響を与える可能性があります。また、パークの規模にもよりますが、ワークショップや大会などのイベントを開催することもできるかもしれません。

また、NPO 法人 日本スケートパーク協会の資料によると 2016 年以降、スケート

ボードパークの施設数が増加し続けていることが分かります。また、中部地方の増加率がほかの地域と比べても、大きいことが分かります。

問題点としては、初期費用とメンテナンスの予算の確保が挙げられます。パークをどのくらいの規模にするのか、清掃や修繕などのメンテナンスをどうするかが課題に挙げられます。また、パークを作る周辺住民のとの話し合いも必要かと考えられます。騒音や治安の悪化を懸念して、スケートボードパークを作ることに反対する問題もあると考えられるので、パークの時間を制限するなどのルール作りが大切になると思います。

以上のように、集客量を増加させるためにスケートボードパークを作ることを提案したいと思います。また、日本人選手のオリンピック等での活躍により、定期的に注目度があがると考えられるので、長期的にもプラスの影響を与えたいと思います。

#### **【回答：市長】**

地方にも財政状況がありますが、夜間の騒音や利用される方の移動手段、どのくらいの方が利用するのか等考えなければならぬ問題が多くあります。若い人が活躍しているスポーツ競技ですが、スケートボードパークの提案は今回が初めてです。様々な資料を調べながら、費用や需要、他施設をみながら検討してまいります。「あったら便利なもの」と「なくてはならないもの」を考えながら、判断していきたいと思います。

#### **【提案・要望：3班】「駅周辺の都市開発」**

稲沢市にある駅は国府宮駅、稲沢駅などの駅があります。この二つの駅は主要都市である名古屋駅にアクセスが良く、また国府宮駅に関しては名鉄線の特別急行で一駅であるという利便さがあります。そこで稲沢市の魅力を伝えるにはこれらの主要駅周辺の開発を行っていくことが重要であると考えます。

一つの案として「稲沢駅周辺といえば」という固定概念を作っていくことです。例えば福島県の喜多方市では、日本三大ラーメンである、「喜多方ラーメン」などが有名でよく認知されていると考えています。そこで稲沢市と言ったらというもの、つまり市で有名なものを駅の周辺で盛り上げることが市を認知してもらう方法だと考えました。例えば稲沢ではオリエンタルカレーなどでカレーが有名なのです。今年では、市役所で行われていた「稲沢市カレーフェスティバル」というイベントが行われており、とても稲沢市を盛り上げる良いイベントだと思っています。しかし行われている場所

は市役所前の駐車場であり、シャトルバスが出ているとはいえ、手軽に立ち寄れる場所ではないと考えます。なので、駅前で様々なカレーがあるフェスを行うということで電車を利用している人たちに知ってもらえるのではないのでしょうか。

もう一つの案として駅周辺にシェアサイクルを導入することです。稲沢市は平野部にあり、自転車は利用しやすい。そして、自転車産業振興協会のシェアサイクル利用調査より利用者は徒歩の代替、公共交通の代替のほかにも健康趣味も挙げられている。シェアサイクルの導入により、稲沢市に観光に来る方の移動の手助けはもちろん、たくさんの人の健康のためにも使用されるのではと考えられます。また稲沢市には駅から少し離れていますが祖父江地区の「祖父江銀杏パーク」、「木曾川緑地公園」などの観光地に足を運んでいただく機会につながるのではと考えています。

稲沢市がこれから認知されていくためにも市の入り口である駅で盛り上げていく必要があると考えています。そのためにもこれらの案に対してどうかご検討よろしくお願い致します。

#### 【回答：市長】

およそ133,000人の町の玄関口としては国府宮駅の現状はさみしいなと感じており、現在国府宮駅の再整備事業を進めております。ロータリーを大きくし、従来のビルより大きなビルを建て駅のバリアフリー化を考えながら再整備を考えております。自家用車の送迎、企業の送迎車、タクシーなど現在一つの場所に混在しておりますので、ロータリーの整備を考えております。さらに、イベントができるような空間を作ることでのぎわいの創出ができるよう取り組んでおります。時間はかかりますが、着々と進めております。

シェアサイクルについては、確かに便利ですが、稲沢市では車が中心となっておりなかなか難しいのが現状です。歩いて楽しめる町に自転車も加わればいいかと思えます。しかし、県道が多いため県と協議していく必要があります。駅の再整備については引き続き進めてまいります。

## 【提案・要望：4班】「SNS を用いた稲沢市魅力発信について」

現在の稲沢市では、公式 LINE、X（旧ツイッター）、Facebook、YouTube を用いて市の魅力発信が行なわれています。しかし、実際にこれらを目にする機会は少ないと感じ、稲沢市の魅力は十分に発信できているのか疑問が残ります。そこで、私たちはこれまで用いられてきた X や YouTube に加えてインスタグラムや TikTok も用いて稲沢市の魅力をもっと若者向けに発信していきべきだと考えます。

現在、稲沢市としてのインスタグラムは利用されていないと思いますが、他の市を見てみるとインスタグラムの利用は活発に行なわれており、インスタグラムを用いて町おこしに成功した町もあります。その代表例として神奈川県葉山町のインスタグラムが挙げられます。

神奈川県葉山町のインスタグラムを見てみるとおよそ 3.8 万人のフォロワーと多く、風景写真が多いです。海と夕日の美しい写真や港の写真らがあり、実際に現地に行ってみてみたいとなります。

また、今では多くの自治体がインスタグラムを利用しています。

現在確認できたところで 24 の自治体が利用しています。このようにインスタグラムは町の魅力を発信するためのツールとしてメジャーなものになりつつあります。

お隣の愛西市のインスタグラムでは蓮の開花情報やオススメランチなどの写真が投稿されています。

一方、稲沢市の SNS を見てみると景色の写真よりは施設の充実さ、市がどのような運営を行なっているかなどに焦点を当てた発信が多いと感じます。

施設の充実さや市の運営方法はもちろん大事だと思いますが若者にもっと稲沢市の魅力を知ってもらい、訪れてもらうには、美しい風景や、観光名所、名物行事の発信を増やしてまずは訪れてもらうことが必要だと思います。

そのためには例えば、稲沢市の魅力の一つとして植木が盛んで、銀杏が有名であるように自然が多い印象です。植木や銀杏の写真など自然にあふれた何気ない日常の風景等を SNS を用いて稲沢市の魅力を発信していきべきだと考えます。

また、稲沢市では YouTube による魅力発信が行なわれていますが、稲沢市の YouTube の場合、およそ 5 分から 10 分間視聴することが必要です。その点から言ってもインスタグラムや TikTok は YouTube の様に時間を取らず、気軽に見ることができると、より多くの人に見てもらえるのではないかと思います。

現在安城市で TikTok を用いた町おこしがなされており、短い時間で市の魅力が伝わり現代の若者が見る機会も多いと思います。

このように、稲沢市の魅力をより広げるためには今まで使用してきた X（旧ツイッ

ター) や YouTube に加えてInstagramや TikTok も活用していくべきだと思います。

**【回答：市長】**

現在、稲沢市の SNS の運用については、市政情報を中心に発信しております。また、イベント情報などの観光に関する情報については、稲沢市観光協会がInstagram等で発信しております。

本市の SNS を活用したシティプロモーションにおいては、今年度から YouTube での「ヤバいなざわ動画」による稲沢の魅力を発信しております。

Instagramや TikTok は有効な情報発信ツールではありますが、まずは YouTube の動画を充実させていきたいと考えております。今後は、視聴時間も考慮し、YouTube にもショート動画がありますので、そちらも活用しながら発信に努めてまいりたいと考えております。

市の情報は LINE を通じて発信し、観光の情報は観光協会が現状発信しておりますが、今回ご意見をいただき今後の運営について検討してまいります。